

＝ 第 26 号 ＝

発行日:2008年11月1日

編集:立命館大学応化会事務局

編集責任者:金川 義孝

〒525-8577

滋賀県草津市野路東1-1-1

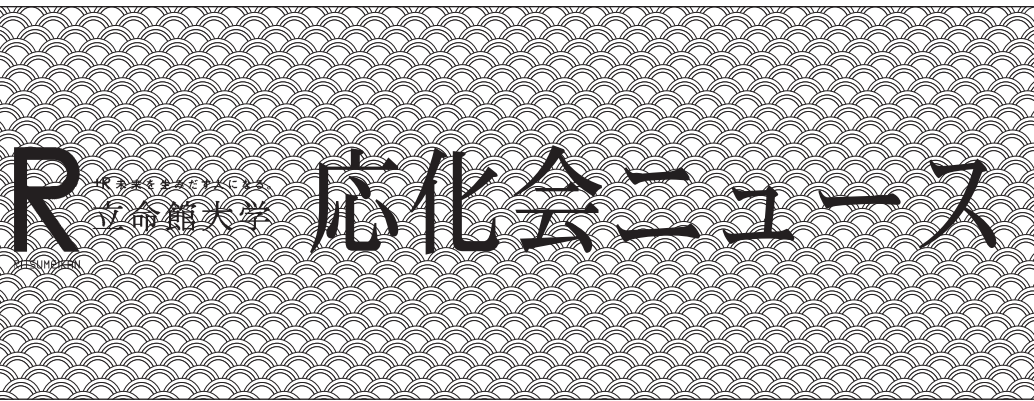
立命館大学生命科学部・

薬学部事務室内

TEL. 077-561-2658

FAX. 077-561-2659

e-mail:oukakai@st.ritsumei.ac.jp



# 立命館大学 応化会ニュース

## 応用化学系の新たな展開

生命科学系Ⅱ 前期学系長

森崎 久雄



応化会の皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、皆様に先ず大きな変化をお知らせします。二〇〇八年四月、立命館大学に生命科学部・薬学部が発足し、応用化学系は大きく変貌しました。旧理工学部応用化学科、同化学生物工学科は、それぞれ応用化学科(定員八十名)、生物工学科(定員八十名)として生命科学部に移り、また、旧応用化学系の理念を継承して発足した情報理工学部生命情報学科は、生命情報学科(定員六十名)として同様に生命科学部に移

り、さらに新たに生命医科学科(定員六十名)が生命科学部に設置されました。学系は、応用化学科と生命医科学科とが生命科学系Ⅰ、生物工学科と生命情報学科とが生命科学系Ⅱ、という編成になっています。今後は、生命科学の基盤的学問である化学と生物化学領域を対象とする応用化学科、バイオテクノロジー、環境領域を対象とする生物工学科、生命科学と情報科学の融合によるバイオインフォマティクスを対象とする生命情報学、ヒトを対象として予防医学など医学領域に取り組む生命医科学科、これら四学科に、新設の薬学部薬学科(定員百名)を加え、それぞれがその学問領域を深く掘り下げていくと同時に、相互の連携を通して、新たな生命科学の創成を目指して行くこととなります。

旧応用化学系の教員は生命科学部・薬学部の関連学科に転籍しました。これは応用化学系の分散ではなく、新たな展開を意味するものと言えます。なぜなら、互いに協力し学系運営に携わってきた経験を活かし、旧応用化学系教員が生命科学部・薬学部の各学科の連携・融合に中核的役割を果たすことが期待されるからです。学部・学科間の連携を重視する姿勢はカリキュラムにも反映されています。例えば、生命科学を学ぶ学生が修得すべき素養や基礎知識については、学科単位ではなく学部単位として科目(基礎科目、専門基礎科目、共通専門科目)が配置されています。少人数クラス編制による英語教育、化学、生物学関連の教養科目を両学部教員が責任を持って担当する体制も新たな教学システムとして注目に値します。



い低炭素・循環型のエネルギー・材料が今ほど求められている時はないと言えます。まさにこの時に、応用化学系は新たな展開を図り、時代の要請に応えようとしています。応化会の皆様方のご指導とご支援をお願いする次第です。最後になりましたが、皆様方のお一層のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

# 生命科学部の新設にあたって

生命科学部長 谷 口 吉 弘

近年、人間は多様な知的活動や産業活動を通じて、自然・生物・環境を大きく改変し、またこれらを利用して便利で豊かな生活を築いてきた。しかし、その変化の影響の部分として、健康・医療、生物資源や地球環境などの新たな課題が生じているのも事実である。人類が作り出した自然環境の急激な変化を前にして、あらためて生命の本質を科学的に解明し、健康を増進し、自然や環境と共生する調和のとれた豊かな社会を創造する必要に迫られている。こうした時代の要請に正面から応えられる人材を育成することが「生命科学部の教育目標」である。

「理学と工学の融合」を目指して展開してきた立命館大学理工学部はわが国における最も古い歴史と伝統を有している。理工学部の新キャンパスへの移転により誕生した新理工学部の理念として「人間

物工学科、生命情報学科に加えて生命医科学科を配置している。また、立命館大学で展開されている産学連携を一步進めた「産学融合研究室」を設置して、企業の一線で活躍されている研究者や技術者と学生・院生が教育研究を通じて人的交流を図れる仕組みも準備している。生命科学の教育研究には実務実習との観点からも医科大学との連携は必須である。このため、滋賀医科大学や関西医科大学などと学術協定を締結し、高度な教育・研究を展開する。また、生命科学分野は「生命倫理」や「心理学」、「医療経済・経営」をはじめとして広く人文社会科学分野のかかわりも多く、総合大学の強みを生かした人文社会科学分野との連携を図る。

「生命科学部」の特徴でも述べた通り、それぞれの分野の専門を学びながら、「生命科学部」の全学科で、理学と工学の基礎科目に加え、医療から生命科学全般にわたる利点を生かしたカリキュラム構成を可能にしている。また、生命科学の学問が持つ国際性を考慮し、英語運用能力の習得にも力を注いでいる。

① 医科学基礎プログラム  
医科学の基礎である「人体の構造と機能」「公衆衛生学」「微生物学」「生化学」などを学ぶとともに、生命科学研究者・技術者に必要とされる倫理について学ぶ「生命科学与倫理」を配置している。

② 医療マネジメントプログラム  
「医療ビジネス論」「医療経営論」「医療経済論」「経済社会論」などの科目から、医療経営の基礎知識を修得する。

③ 医療と社会プログラム  
「生命倫理」「医療システム」「医療社会論」などの科目を配置して、医療をめぐる社会環境と社会とのつながりから生じる倫理的・社会的視点から生命科学を理解する。

④ プロジェクト発進型  
英語プログラム  
学生の関心のある身近なテーマから、専門性の高いテーマまで英語で情報収集、発進する「プロジェクト授業」とそれを支える「スキルワークショップ型授業」の二本の柱で、高度な英語力を養成する。以上のような「生命科学部」の教育目標に基づくカリキュラムと学科構成は、大学入学志願者に広

く受け入れられ、わずか二百八十名の入学定員に対して九千名近い受験者が殺到した。このため、各学科において歩留まり（合格者に対する入学割当）を読み違えたために、私学助成交付基準の一・四倍（入学定員に対する入学割当）を超える結果となった。このため、大学として「生命科学部」の入学生を対象に特別転籍を実施した。

このことが新聞紙上で大きく報道され、社会的批判を招く結果となり、応化会の皆様には大変ご心配をおかけしました。ここに深くお詫び申し上げますとともに、応化会の皆様のご理解とご支援を切にお願い申し上げます。





# 総合理工学院薬学部の新設にあたって

## 新設にあたって

薬学部長 北 泰行

二十世紀の日本は、先進諸国から最新の技術・知識を導入し、道標のある道を進むキャッチアップの時代を経て、経済だけでなく学問・研究においても驚異的な発展を実現してきた。二十世紀の終りから二十一世紀にかけて、世界の

より、多くの学科を有する既存の理工学部や情報理工学部と連携・融合し、よりダイナミックで魅力的な新しいライフサイエンスの教育・研究拠点が形成されるものと確信している。

トップの仲間入りを果たした日本は、今や、自ら道を切り開かねばならないフロントランナーとしての役割を担うまでに至った。なかでも生命科学分野では、ポストゲノム、テラーモード医療、再生医療、脳科学、環境科学、エネルギー、食糧資源や生命倫理問題への取り組み等が重要な時代となり、今程大学の果たす役割が大きい時代はなかったと言っても過言ではない。

立命館大学には、これ迄薬学部がなかったため、筆者が国立大学薬学部で合わせて三十六年間教官を務めた経験を踏まえて、ここ数年における薬学部の抱える問題について私見を述べてみたいと思う。

日本の薬学の歴史をたどると、長井長義先生（一八四五—一九二九）が、ドイツで近代科学の取り組み等が重要な時代となり、薬学を学んだ後、東京大学薬学系の教授に就任し、エフエドリンの発見をはじめとする世界的業績をあげ、一八八〇年に日本薬学会を創立すると共に初代会頭に就任したことに始まる。以来、薬学は主として有機化学を中心として医薬産業に大きく貢献し、他にも医療、保健、衛生等の分野にも貢献して

きた。薬学部の卒業生は、医薬品の開発研究を主として行う者と、薬剤師免許を取得し、医療・保健関係業務に従事する者と大きく二つに分かれてきた。しかし、近年、医療薬学の充実のため、政府の肝いりで平成十八年に薬学部六年制がスタートした。薬学部は既存の四年制学部+大学院博士課程（前期二年と後期三年制）のいわゆる（四十二+三）年制と、新しい六年制学部+四年制大学院博士課程の（六十四）年制との二つのコースが出来ることになり、はじめの六年間については各大学が（四十二）年制にするか六年制にするかの選択に苦悩した。これ迄卒業生の多くが企業の創薬研究者や大学教員となっている国立大学では、（四十二）年制の学生定員比率が高く、東大の九十%を最高に、東北大七十五%、阪大六十九%、北大、京大、九大六十三%と圧倒的に（四十二）年制が多く、他の国公立大学では五十%前後となった。一方、伝統のある薬学系私立大学の東京薬大や京都薬大が百%六年制を選択したこともあり、私立大学の薬学部は九十%以上が六年制で薬剤師を目指すコースが中心となった。私は、阪大に在職中は強力な（四十二）年制推進派で、研究を志向

する重点化大学では、三割程度は高度な薬剤師を養成する六年制が必要ではあるが、七割以上は（四十二）年制とし、今迄以上に博士後期課程に進学者を増やして創薬科学研究者を育成すべきであると考えてきた。

こうした研究至上主義を唱えてきた私が、百%六年制のシステムを採っている立命館大学の薬学部長に就任したことに不信の念を抱く方もおられるかも知れない。

しかし、実は、現在の立命館大学の生命科学部・薬学部の連携・融合の教育・研究体制は私の理想であるようにも思える。見方を変えると、生命科学部（二百八十名）が薬剤師の資格は得られない（四十二）年制で、薬学部（百名）が六年制に相当すると見なすことができ、七十四%が創薬やライフサイエンス領域の研究者を、二十六%が高度な薬剤師を目指すことになる。さらに、生命科学部と薬学部間での、学部横断型カリキュラムや学生の研究室分属の自由選択により、お互いに幅広い教育と研究が可能となる。全国的に医薬連携が多い中で、立命館大学は理工薬連携という、現在の日本の大学薬学部には全く存在しない斬新で有機的な体制となった。今

後、生命科学部・薬学部の連携にさらに、既存の理工学部と情報理工学部が加わり、学術分野の細分化と拡散による、科学技術と社会との関係の希薄化を防ぎつつ、学術の進展が社会的価値にも還元しうる総合理工学院として理想的な型に結実できればと願っている。

このような信念の下、立命館大学の薬学部では、薬学教育を通じて、医療人としての倫理観・使命感を持ち、確かな能力と豊かな人間性を培った、高度な医療薬剤師や医薬化学のエキスパートとして活躍する人材の育成を目指すものとする。さらに、地域と連携した薬学教育や地元企業との共同研究を積極的に推進して、地域社会に貢献し、やがて、地域から世界の科学分野へ挑戦したいと考えている。

（編集委員注：理系四学部をまとめた組織である総合理工学院が発足したので、立命館大学総合理工学院薬学部が正式名称である。しかし、総合理工学院は省略されることが多い。）

私は、阪大に在職中は強力な（四十二）年制推進派で、研究を志向

斬新で有機的な体制となった。今



# 医療への信頼を取り戻すにはどうすれば

## 良いか？——医療技術（医薬品）

### 評価システムの現状と課題

生命科学部 生命医科学科 下 妻 晃二郎



く安心してお産ができない」、「救急車に乗ってもたらい回しされる」、などなど。

我々専門家からみると国民やマスコミの誤解は多少ありますが、医療のシステムや内容について、専門家が国民にわかりやすく説明する機会が少ないことは事実でしょう。

二十世紀の中頃には、主要先進国の中でも最も寿命が短い国だった日本が、現在では世界最長寿命になっているのは良く知られている通りです。また世界保健機関(WHO)からは、寿命ばかりか、健康寿命(寿命に健康度を加味した指標)も最長で、しかも少ないコストでそれらが得られている、と高い費用対効果のお墨付きももっています。

しかし、わが国の医療に関して国民からは様々な不満が聞かれます。例えば、「医療費が高い」、「医療ミスが多い」、「待ち時間が長く、診察時間は短い」、「産科医が少な

のデータによると、新規物質が厚生労働省管轄の規制当局(現在はPMDA)の承認を取得できる確率は一五、六二二分の一、約〇・〇〇六%にすぎません。さらに、市販された一医薬品あたりの研究開発費は五百億円、販売促進費を含めた総費用は一、二〇〇〇一、九〇〇億円かかります。期間も十年以上かかることは珍しくありません。

③の「治験」では、さらに第I—III相試験までの三つの過程が必要で、第I相では健康者(二十—三十人)を対象として、毒性(安全性)の確認と最大耐用量の決定を行います。第II相では四十—百人の患者さんを対象に、至適用量の決定と効果の「当たり」をつけます。さらに第III相では百—数千人の患者さんを対象に、標準治療(その時点で最も効果があることが確かめられているか、世界中で広く行われていて専門家が認めている治療)との比較を行うことによつて、「効果」の程度と「有害事象」の詳細を明らかにします。

次に、「市販後の臨床試験」の意義。製薬企業は市販に漕ぎ着けるとホッとするのはですが、患者さんや社会にとつては、それで手放しで歓迎というわけにはいきません。なぜなら、治験の段階では科学性

が重視されますから、対象患者さんの条件が厳しく(状態のいい患者さんが対象になりがち)、また人数も少ないため、市販後にはるか多くの患者さんに使ってみると、効果が予想を下回ったり、予期しなかった重篤な有害事象がおこったりすることもあります。

また、例えば抗がん剤では、治験段階では腫瘍が縮小することが主な指標として認可されることが従来多かったのですが、市販をしてみると、その薬剤の真の目的である、「生存期間の延長」と「生活・生命の質(QOL)の改善」が実際に得られないこともあります。そのような「真のリスクと恩恵」を検証するための仕組みが「市販後の臨床試験」です。

製薬企業にとつてはこの市販後の臨床試験を支援することは諸刃の剣ともいえ、拡販に繋がらない限り資金的援助が得られることは容易ではありません。しかし逆に、「利益相反」が起こらないような環境でなければ、公平な結論が得られる臨床試験はできませんので、今後は「市販後の臨床試験」に手厚い公的資金支援が行われることが望まれます。

三、「臨床試験において「主観的健康度」を評価する難しさ。一般の方だけでなく専門家もよく「効果」という言葉を簡単に使いますが、医薬品の種類によつて、望まれる「効果」の指標は実に様々です。前項でも少し触れましたが、一般に「生存期間(の延長)」と「質の高い」健康度」が二本柱です(あえて二本柱とすると、加えて「費用対効果(効用)」)。

しかし、生存期間の客観的評価が容易である一方、健康度は、第三者が評価できるものには限られ、患者さんの、いわゆる「主観的健康度(Patient-reported health outcomes: PROs)」が大切です。自然科学を学んできた人々には理解されにくい分野ですが、社会が、医療現場が、そして患者さんや一般国民がPROsの信頼性の高いデータを医療に生かしたいと考える限り、適切な評価法を確立する地道な努力が我々のような研究者に求められています。

最後に、上記で述べたような、信頼性の高い評価システムの確立を含む、地道な医療システム確立と、一般国民への理解度向上の努力が、「医療への信頼を取り戻す」ために大切であると考えています。(本稿は、二〇〇八年二月二十四日に応化会第二回健康セミナーで講演をさせていただいた内容の一部です。)



# 「私とテニス」

田口 肇 (昭和六十二年卒)



私は、四回生と大学院の二年間、無機化学研究室で松田二郎先生とその後を引き継がれました小島一男先生にお世話になりました。月日が経つのは早いもので、私が立

命館大学を巣立って、今年で二十年目になります。現在は京都市産業技術研究所で業界分野の仕事に携わっております。

さて、私の趣味はテニスです。現在住んでいる亀岡市でサークルに入り、月二回程度の練習と市の大会や近郊での大会に参加し、腕試しをしています。

テニスを始めた動機は、社会人になって何か継続的にできるスポーツをと思い、大学生時代に人気のあったテニスをする事にしました。サークルのメンバーはとても愉快な方々で、職種も色々です。中には外国の方もおられます。年会費は、毎週日曜日と祝日の四時間で昨年まで一万二〇〇〇円でした。これを時間単価で考えた場合、

全て参加すると一時間当り約五十円で汗がかけるといふ事になります。ラケットやシューズ、ウェア等の費用はかかりますが、意外とリーズナブルなスポーツであることに気がきました。今年は原油高や地球温暖化等の影響という事ではないのでしょうか、一万八〇〇〇円に値上がりしました。それでも一年間通しての一時間当りの参加費としては、安いと思います。

テニスをして来て感じた事が、もう一つあります。それは、他のスポーツと同様に用具選びのむずかしさです。毎年各社から最新のラケットが発表されますが、自分に合ったラケットに巡り会うまでかなりの時間がかかりました。ガットの素材や形状、テンションの程度によって幾通りもの組合せができ、始めてから十年程度経つてやっと自分の思うような状態になって来ましたが、これは永遠の課題と言うことで、これからも少しずつ頑張つて行こうと思います。

最後に、私は昭和六十二年卒の年度幹事をしております。何か応化会についてご意見や企画等ありましたら、事務局を通して私の方までご連絡下さい。

## 支部だより

# 「先憂後楽の志」

関東支部長 仲宗根 宗 督 (昭和三十五年卒)



「関東支部総会」にて「支部会則」を発表

脚した「規約・会則」つくり心血と叡知を結集していただいた幹事並びに関係者に改めて「敬意」を表します。

関東支部の現状と課題

「月日は百代の過客にして・・・」昨年の「美しい日本の錦秋」の佳日全国校友会総会が有楽町の東京国際フォーラム会場で開催されたのに呼応して、関東支部総会を本学東京キャンパスで開催しました。総会には、応化会会長・同事務局の関係者並びに関係学部の諸先生の皆様にご出席とご支援を頂きましたことを改めて感謝申し上げます。「社会の進展と変化」に即応して、谷口吉弘現生命科学部長より「生命科学部・薬学部」が新学期より開設されるに鑑み、設立の歴史・趣意と併せてその期待と将来像についてご講演をいただきました。終了後、全国校友大会会場に席を移して、懇親と友情を深めることが出来ました。懸案であった、「関東支部会則」と「役員人事」が発表可決され、組織運営上の骨格が出来たことは貴重な「礎」となると確信しております。「本部会則」との整合性と支部の将来像に立

支部長就任三年目になりますが、支部運営の要である幹事長が早三名変わられております。柏井幹事長(防衛省研究所安全部長の要職中に発病)が就任早々志半ばにして一年後急逝され、後任の城戸幹事長(バイエルメデイカル株)も一年有余ご努力対応して頂きましたが総会直前定年退職され在京から帰京(京都)され、現山内幹事長(城北化学専務)が鋭意努力就任中です。歴代の各幹事長は多忙な現職にあつて誠実に対応していただき心から感謝しています。また会場の手配等開催に際しては本学の東京キャンパスの皆様方の絶大なご協力を仰いでいます。広範囲なエリアの支部会員の叡知を集めて活発な運営活動が出来ることを幹事一同真剣に対応中ですが、多忙中の現職幹事のご苦勞も、会議の日程調整も大変です。

立命館の各種行事に積極的にご参加を!!

東京で開催される多くのイベントに参加要請して共通認識の輪を広げつゝあります。変革の時代を迎えて新しい器には新しい人材の参加を!! 「志」半ばの支部便りですが、関係各位のご支援をお願い申し上げます。

# 新任の先生から一言

## 池田慎吾先生



本年四月より生命科学部応用化学科に助教としてお世話になっております。専門は無機材料化学で、主に金属・高分子複合材料の合成とその機能特性評価について研究しております。現在は、金属ナノ粒子分散高分子材料の微細構造制御による物性制御についての研究に取り組んでおります。皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

**略歴** 二〇〇五年三月 甲南大学大学院自然科学研究科 生命・機能科学専攻 博士後期課程修了 博士(理学)。二〇〇五年四月 日本学術振興会特別研究員。二〇〇六年四月 産業技術総合研究所 博士研究員。二〇〇八年 四月 本学着任。

## 池永 誠先生



本年の四月より生命科学部生物工学科に助教としてお世話になっております。専門は微生物生態学で、これまでに、水稲根に生息する微生物群集や、エバググレース国立公園内の各生熊系における微生物群集の解析を行ってきました。また本年度より、微生物の表面特性に関する研究も専門に加わり、新たな専門分野の研究とその発展を非常に楽しみにしています。応化会の皆様には、これからもいろいろな場面でお世話になることと思います。まだまだ未熟な点が多くありますが、皆様のご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

**略歴** 一九九九年三月 立命館大学理工学部生物工学科卒業。二〇〇〇年三月 名古屋大学大学院生命農学研究科生物機構・機能科学専攻博士課程前期課程修了。二〇〇四年三月 同博士課程後期課程修了 博士(農学)。二〇〇四年四月 フロリダ国際大学東南環境研究センター 博士研究員。二〇〇八年四月 立命館大学生命科学部生物工学科 助教。

## 今中忠行先生



本年四月より新設の生命科学部に着任し、生物工学科環境バイオテクノロジー研究室を担当することになりました。私の専門分野は生物工学、基礎及び応用微生物学、極限環境微生物学、環境バイオテクノロジーといった

ところですが、何でも楽しく研究してしまおうと考えています。立命館大学BKCは明るく華やかで気に入っており、少し若返った気分です。どうぞ宜しくお願い致します。

**略歴** 一九六七年 大阪大学工学部発酵工学科卒業。一九六九年 同大学院工学研究科修士課程修了 同年博士課程中退。一九七〇年 大阪大学工学部助手。一九八一年 同助教。一九八九年 同教授。一九九六年 京都大学大学院工学研究科合成・生物化学専攻教授。二〇〇八年 本学に着任 工学博士。二〇〇五年より日本学術会議会員。

## 松宮芳樹先生



本年四月より生命科学部生物工学科に助教としてお世話になっております。現在は植物に対して生理活性を有するペプチドの作用機作に関する研究を行っております。いろいろと未熟な面が多く、反省ばかりの日々ですが、頑張ってきたと思います。今後とも何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

**略歴** 二〇〇二年三月 立命館大学大学院理工学研究科修了。二〇〇五年三月 立命館大学大学院総合理工学専攻博士後期課程修了 博士(工学)。二〇〇五年四月 立命館大学理工学部化学生物工学科助手。二〇〇八年四月 立命館大学生命科学部生物工学科 助教。

## 奥田修二郎先生



本年四月より、生命科学部生命情報学科に助教として着任いたしました。専門はバイオインフォマティクスで、比較ゲノム解析やデータベース構築、マイクロアレイの解析などを行って参りました。ゲノム科学の分野はますますスピードアップしています。そのスピードに負けないよう研究に邁進して参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

**略歴** 二〇〇一年 立命館大学理工学部生物工学科卒業。二〇〇三年 京都大学理学研究科生物科学専攻博士前期修了。二〇〇六年 同博士後期修了。二〇〇七年 京都大学化学研究所COE研究員 博士(理学)。二〇〇八年四月 本学に着任。

## 河合洋介先生



本年四月より生命科学部生命情報学科助教としてお世話になっております。専門は分子進化学・進化遺伝学です。現在は配列解析によりゲノムの大部分を占める非タンパク質コード配列の機能探索を行っております。研



究・教育を通じて学生にサイエンスの楽しさを伝えていきたいと考えております。皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

**略歴** 二〇〇三年三月 東京理科大学大学院理工学研究科応用生物科学専攻博士前期課程修了。二〇〇六年三月 東京理科大学大学院理工学研究科応用生物科学専攻博士後期課程修了 博士(理学)。二〇〇六年四月 国立遺伝学研究所特任研究員。二〇〇八年四月 本学着任。

## 谷田 守先生



本年四月から生命科学部生命医科学科に助教としてお世話になっております。専門は生理学、運動生理学です。これまで、ラット・マウスの自律神経調節機構について研究を行ってきました。本学では、運動や免疫に関する研究テーマにも取り組んでいきたいと思っております。これまでに以上に不慣れな精神で頑張っていきたいと思っております。何卒ご指導くださいますようよろしくお願ひいたします。

**略歴** 二〇〇六年三月 大阪大学大学院医学系研究科情報伝達医学専攻博士課程修了 博士(医学)。二〇〇六年四月 株式会社 YMP インターナショナル ANBAS 事業部 入社。二〇〇七年四月 株式会社 ANBASへ社名変更。二〇〇八年四月 立命館大学生命科学部生命医科学科 助教。

## 堀 利行先生



本年四月より生命科学部生命医科学科の教授として赴任してまいりました。専門は、内科学、血液学、免疫学です。大学を卒業後、血液内科の臨床に携わりながら、血液学、免疫学を中心に基礎研究にも関わってきました。本学では、臨床医学の知識と経験を学生たちに伝えるとともに、がんや免疫に関する基礎研究を発展させたいと思っております。皆さまのご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願ひ申し上げます。

**略歴** 一九八〇年 京都大学医学部医学科卒業 医師免許取得。一九八〇年 京都大学医学部附属病院内科研修医。一九八一年 兵庫県立尼崎病院内科医員。一九八八年 京都大学大学院医学研究科博士課程修了 医学博士取得。一九八八年 米国立リフォルニア州DNAX研究所博士研究員。一九九二年 京都大学ウイルス研究所助手。一九九八年 京都大学大学院医学研究科講師。二〇〇八年四月 本学に着任。

## 吉崎尚良先生



本年四月より生命科学部生命医科学科に助教としてお世話になっております。これまで「CRISPR」を応用した分子プローブを用い、細胞内シグナル伝達の研究に取り組んでまいりました。本学着任後は、質量分析を用いた疾患原因シグナルの探索と、これらのシグナルをモニタする分子プローブの開発を行い、情報伝達をターゲットにした創薬の可能性を追求したいと考えています。

**略歴** 一九九七年 龍谷大学理工学部卒業。一九九九年 奈良先端科学技術大学院大学博士前期課程修了。一九九九年 国際試薬株式会社 契約研究員。二〇〇一年 大阪大学微生物病研究所 研究員。二〇〇六年 学位取得(医学博士・大阪大学)。二〇〇六年 国立循環器病センター 研究所 流動研究員。二〇〇八年 立命館大学生命科学部生命医科学科 助教。

## 吉田真子(よしだなおこ) 先生



本年四月より生命科学部生命医科学科に助教としてお世話になっております。専門は細胞生物学、発生生物学で、マウスを用いて中枢神経幹細胞および初期胚発生に関する研究を行って来ました。立命館大学では応用的側面を少し視野に入れて、研究を展開したいと考えております。応化会の先生方はじめ皆様のご指導と御鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

## 池谷幸信(いげやゆきのぶ) 先生



**略歴** 一九九八年三月 東京大学農学部応用生物化学専修卒業。二〇〇〇年三月 東京大学大学院農学生命科学研究科応用生物化学専攻修士課程修了。二〇〇三年三月 同博士課程修了 博士(農学)。二〇〇三年四月 理化学研究所発生・再生科学総合研究センター研究員。二〇〇八年四月 立命館大学生命科学部生命医科学科 助教。

本年四月より薬学部の生薬学担当として赴任致しました。これまで民間会社の研究所において、漢方薬有効成分の解明、生薬からの新薬開発のための先導化合物の探索研究、入浴剤の開発研究を行ってまいりました。これまで行ってきた薬や医薬部外品の研究の経験を学生の育成に活かしたいと思っております。よろしくご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

**略歴** 一九七二年 静岡県立静岡薬科大学薬学部卒業。一九七四年 同大学院薬学研究科修士課程修了。一九七九年 薬学博士(東京大学薬学部)取得。一九七四年〜二〇〇八年(株)ツムラ研究員。二〇〇四年〜二〇〇八年 武蔵野大学薬学部客員教授。二〇〇八年 本学に着任。

## 位田雅俊(いんでんまさとし) 先生



本年四月より薬学部薬学科に助教としてお世話になっております。専門分野は薬理学で、本学着任後は「精神・神経疾患モデル動物を用いた発症機序の解明及び創薬研究」をテーマに創薬研究を行い、少しでも社会に貢献出来ればと思っております。諸先生方をはじめ皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

**略歴** 二〇〇一年三月 京都薬科大学薬学部生物薬学科卒業 薬剤師免許取得。二〇〇五年四月 日本学術振興会特別研究員。二〇〇五年九月 京都薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻博士後期課程修了 博士(薬学) 取得。二〇〇六年四月 京都薬科大学・COE ポストドクトラルフェロー。二〇〇六年九月 テキサス大学医学部 ポストドクトラルフェロー。二〇〇八年四月 本学着任。

## 岡本誉士典 先生



本年四月より薬学部薬学科に助教としてお世話になっております。私は「衛生化学」を専

門としており、ヒトの疾病(主に癌)と化学物質との関係について研究しています。本学着任後は、主に化学物質による幹細胞の癌化メカニズムについて研究を進める予定です。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

**略歴** 二〇〇一年三月 名城大学薬学部薬学科卒業。二〇〇三年三月 名城大学大学院薬学研究科薬学専攻博士前期課程修了。二〇〇六年三月 同博士後期課程修了。名城大学・薬博第一〇二号。二〇〇六年三月 ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校医学部 博士研究員。二〇〇八年四月 立命館大学薬学部薬学科 助教。

## 北原 亮 先生



本年四月より薬学部薬学科に専任講師として着任いたしました。学部、博士課程、ポストドクを通じ、現在に至るまで、一貫して高圧NMR法による蛋白質構造の基礎科学研究を行って参りました。立命館応用化学の伝統の一つである高圧力科学研究の益々の発展と薬学分野への新展開を目指して、教育と研究に持てる力を発揮いたします。皆様のご指導のほど何卒宜しくお願ひ申し上げます。

**略歴** 一九九七年三月 立命館大学理工学部化学科卒業。一九九九年三月 立命館大学大学院理工学研究科物質理工学専攻博士前期課程修了。二〇〇二年三月 神戸大学大学院自然科学研究科分子集合科学専攻博士後期課程修了 博士(理学)。二〇〇二年四月 理化学研究所基

礎科学特別研究員。二〇〇五年四月 日本学術振興会 特別研究員。二〇〇八年四月 立命館大学薬学部薬学科 専任講師。

## 北 泰行 先生



本年四月より薬学部教授、薬学部長として着任致しました。専門は有機合成、創薬化学です。独自に開発した反応や反応剤を用いて数々の有用生物活性天然物の全合成を達成してきました。現在は、有効な機能性有機化合物の分子設計にも力を注いでおります。微力ではありますが、薬学部の発展のために努力を致す所存ですので宜しくお願ひ申し上げます。

**略歴** 一九七二年三月 大阪大学大学院薬学研究科博士課程修了 薬学博士取得。一九七二年六月 大阪大学薬学部助手。一九七五年九月 マサチューセッツ工科大学博士研究員(二年間)。一九八三年四月 大阪大学助教。一九九二年四月 大阪大学教授。一九九七年四月 大阪大学製薬化学科長(二〇〇二年迄)。一九九八年四月 大阪大学評議員。二〇〇〇年四月 大阪大学産業科学研究所教授(兼任一年間)。二〇〇六年四月 大阪大学薬科学科長(二〇〇八年迄)。二〇〇八年四月 本学着任、大阪大学名誉教授、大阪大学産業科学研究所特任教授、日本学術会議連携会員、日本学術振興会学術システム研究センター専門委員、日本薬学会監事。

## 佐竹弘行 先生



本年度より薬学部薬学科助教として着任させていただきました。久し振りに関西に戻ってまいりましたが、気持ちを引き締め、研究に、教育に、全力で邁進する所存でございます。専門は分析化学ですが、一時期有機化学系の研究もしておりました。まだまだ若輩者で至らない点も多いかと思っておりますので、よろしくご指導、ご鞭撻の程お願ひ申し上げます。

**略歴** 二〇〇一年 東北大学理学部化学科卒業。二〇〇三年 同大学院理学研究科化学専攻博士課程前期課程修了。二〇〇六年三月 同博士課程後期課程修了 博士(理学)。二〇〇六年 日本学術振興会特別研究員。二〇〇七年 科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業研究員。二〇〇八年 本学に着任。

## 高田健太郎 先生



本年四月に新設されました薬学部の助教として着任致しました。専門は天然物化学で、天然物が生産する有機化合物のユニークな化学構造や生理活性に魅せられ、これまで医薬



品のシード化合物の探索研究に従事してきました。今後はこれまでの経験を活かし、教育と研究の両面で本学に貢献できたら幸いです。今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほど、宜しく  
お願い致します。

**略歴** 一九九九年 東京大学農学部卒業。  
二〇〇四年 東京大学農学生命科学研究科博士課程修了 博士(農学)。二〇〇四年 米国立がん研究所(NCI/NIH) 分子標的開発プログラム博士研究員。二〇〇七年 理化学研究所ゲノム科学総合センター基礎科学特別研究員を経て、二〇〇八年 本学に着任。

## 高田達之先生



本年四月より薬学部教授として着任させて頂きました。これまでいろいろな分野を転々とし、最近ではES細胞などの多能性幹細胞を扱っております。今後は幹細胞を薬学研究、教育に利用するとともに、薬学部の発展に精一杯努力する所存です。応化会の皆様のご指導、ご鞭撻を賜ります様、宜しくお申し込み申し上げます。

**略歴** 一九八八年三月 東北大学大学院農学研究科修了。一九八八年四月 神戸大学農学部助手。一九九〇年十月 米国立衛生研究所(NIH) 研究員。一九九五年十月 国立小児病院小児医療研究センター 研究員。一九九八年五月 滋賀医科大学医学部放射線基礎医学講座 助教授。二〇〇三年二月 滋賀医科大学動物生命科学研究センター 助教授。その後准教授。二〇〇八年四月 本学着任。

## 武内総子(たけうちふさこ)先生



本年四月より薬学部薬学科に助教としてお世話になっております。専門分野は生化学で、膜タンパク質による物質輸送・電子伝達の研究を行っております。本学の生命科学のさらなる発展に貢献できるよう研究・教育にまい進していきたいと思っております。皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いたします。

**略歴** 二〇〇四年三月 姫路工業大学大学院理学研究科生命科学専攻博士後期課程修了 博士(理学)。日本学術振興会 特別研究員、神戸大学大学院理学研究科 学術研究員などを経て、二〇〇八年四月 立命館大学薬学部薬学科 助教。

## 茶谷絵理(ちやたにえり)先生



本年四月より薬学部の助教として赴任いたしました。専門は、蛋白質化学、生物物理学で、現在は、蛋白質の誤った折りたたみにより形成されるアミロイド線維の研究に取り組んでいます。昨年度まで応用化学科の所属であっ

た加藤稔先生の研究室に在籍する機会をいただきましたので、今後応化会の皆様にはいろいろとお世話になると思えます。ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い致します。

**略歴** 一九九七年三月 京都大学農学部農芸化学科卒業。二〇〇二年三月 京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了 博士(農学)。京都大学農学部教務補助、日本学術振興会特別研究員、大阪大学蛋白質研究所特任研究員を経て、二〇〇八年四月 本学に着任。

## 豊田英尚先生



本年四月より薬学部薬学科に教授として着任いたしました。専門は分析化学で、糖鎖の微量分析を主要な研究テーマとしています。糖鎖はバイオテクノロジーノロジー応用医薬品の品質・有効性・安全性に影響する重要因子であることから、薬学領域ではその解析技術をもつる人材の育成が求められています。応化会の皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

**略歴** 一九八六年 千葉大学薬学部総合薬品科学科卒業 薬剤師免許取得。一九八八年 同大学大学院薬学研究科修士課程修了後、帝人株式会社生物医学研究所研究員。一九八九年 千葉大学薬学部教務職員を経て、二〇〇三年 同助教。一九九九年 二〇〇〇年 米国立アリゾナ大学分子細胞生物学部研究員。二〇〇八年 本学に着任 薬学博士(千葉大学)。

## 守屋友加(もりやともか)先生



本年四月より薬学部薬学科に助教としてお世話になっております。専門は、臨床薬学です。これまで、小児薬物療法の最適化に関する研究を行ってまいりました。医療現場では様々な問題に対し、医療人の一員として、その一端に貢献できればと考えております。未熟な点も多く、先生方には色々とお世話になることと思いますが、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお申し込み申し上げます。

**略歴** 二〇〇〇年三月 京都薬科大学薬学部薬学科卒業 薬剤師免許取得。二〇〇二年三月 京都薬科大学大学院薬学研究科臨床薬学専攻修了。二〇〇二年四月 神戸大学医学部附属病院薬剤部 薬剤師。二〇〇八年三月 博士(薬学)。二〇〇八年四月 本学着任。

他に、鈴木佑治教授(生命情報学、英語)、野間昭典教授(生命情報学、バイオシミュレーション)、土肥寿文助教(薬学、精密合成化学)、山本直樹助教(薬学、神経化学)の各先生が着任されました。

# 体験！！ 中国生活雑感

清原 紘 (昭和三十九年卒)

近くて遠い国中国と言われると昔日の語感がある。

今や世界で大国の実力を認められるようになり、世界の工場と言われるまでに変貌した。私は繊維加工の仕事で、上海生活は八年目を迎え、中国社会の興味深い現象を我流に分析して述べてみようと思う。

中国は人間力の国であると物理的に分かる。そのバイタリティがこの国のエネルギーの源泉でもある。

中国は朝令暮改と言われる程法律が変わる。人民もそれを知っているので、上に政策あれば、下に対策ありと即盲点を突いて対応する。全く、いたちごっこの感が日常である。

我思うに、政府は人民を信用せず、人民も又政府共産党を信じないと言う不文律が存在すると理解せざるを得ない事例は山程ある。

四川省地震の学校の手抜き工事、党幹部の汚職、腐敗問題は日常茶飯事で、国民周知の事実になっている。

地方政府の党幹部による農民の土地の不法取得は各地の工業団地造成で賄賂問題と共に各地で係争を起している。

生活実体験として、特に不便に感じる一つに人民元に高額紙幣がないことである。現在は百元(＝約千五百円)のみで、高額

な買い物や、銀行から五万元を下ろすとすると、五百枚も数えなくてはならず、時間と労力に閉口してしまう。通勤通学定期の制度もない。この不便さも高額紙幣等を発行すると、即偽物の出現に当局は躊躇していると推測される。又買い物をして紙幣を出すと必ず裏表を確認し、透かしを空にかざして真贋を確認し、特に新札程時間を掛けてチェックし、日本では考えられない行動を経験する。

文化の違いと言えばそれまでであるが、人権や社会のモラルは軽く扱われているようである。

今後の中国を見ていくと、急激な経済発展で様々な問題が複雑に内包されているが最大の課題は農村との貧富の格差の解消であろう。政府もこの問題を放置することの政治的危険性を最近感じ始めているようである。

最大の課題は農村との貧富の格差の解消であろう。政府もこの問題を放置することの政治的危険性を最近感じ始めているようである。

最大の課題は農村との貧富の格差の解消であろう。政府もこの問題を放置することの政治的危険性を最近感じ始めているようである。

# アメリカでのポストドク生活

西田 悠 里 (平成十四年卒)



二〇〇七年九月に立命館大学大学院博士

後期課程を修了後、アトランタにあるジョージア工科大学で、出芽酵母を用いたブリアンタンパク質の研究に携わっています。一番の問題点は、私の貧弱な英語力。もうすぐ一年が経つというのに、伝えたい事の半分もきちんと表現することが出来ず、相手が話して下さることも勝手な推測で解釈してしまっています。一切英語を聞きたくも読みたくもな

いと、大変重要な自分の事であっても、自身で対処出来ないことが多々あり、自分の無力さを痛感する毎日です。しかしこんな私でも、研究は熱心に取り組むことが出来ています。もちろん、報告をしたり理解をするのにかなりの時間をかけてしまっていたり、活発な議論に加われなかったり通常に悔しい思いをしています。だからと言って、急に英語力が伸びるわけはありません。現実を受け止め、向上心を持って日々苦勞しています。

日常生活では、日本では考えもしなかったことにぶち当たったり、常識だと思ひ込んでいたことを覆させられる事がたくさんあります。また、何が何でも伝えたい、知りたいという感情が自然と生まれ、その中で人や物事とぶつからざるを得ません。アトランタでの生活は自分にとって貴重なことばかりです。価値観が確実に広がる環境に恵まれていることを心より嬉しく思っています。

最後にになりましたが、このきっかけを与えて下さいました立命館大学、小野文一郎教授、現在ご指導頂き、大変お世話になってるジョージア工科大学、Prof. Yury Chernoffに深謝いたします。また、たくさんの方々親切にして頂き、助けられて生活を送っています。心より感謝いたします。さらに励ましてくれていた友達や仲間、温かく見守ってくれている家族に対し、感謝の意をここに表します。

## 事務局だより

企画運営委員会では、現在活動中の「ゴルフ懇親会」、「ハイキング」に加え、新たに「釣り天狗クラブ」が発足することになりました。応化会は、開催案内の発送費用のみ負担し、活動自体への補助は行っておりませんが、ご興味のある方は、是非一度ご参加下さい。応化会は、皆様からの年会費で運営しております。今年度の年会費納入にご協力下さい。





# 企画運営委員会報告

委員長 篠原 長 政

(昭和四十三年卒)

企画運営委員会では、会員の親睦を目的に「ゴルフ・懇親会」と「ハイキング」を実施しています。

さらに本年度は「応化会・釣り天狗クラブ」を立ち上げます。お世話は、平成四年卒の目片秀明様(第二十五号「応化会に若い血を」参照)をお願いしています。

初回の開催は、以前のアンケート調査の結果をもとに、事務局からご案内をする予定です。

次回以降は、同封の葉書で、新規にご登録いただいた方にも、事務局よりご案内致します。

## 第二回健康セミナーの開催

平成二十年二月二十四日(日)、京都タワーホテルにおいて開催しました。

「医療への信頼を取り戻すにはどうすれば良いか」(医療技術(医薬品)の評価システムの現状と課題)と題して、立命館大学総合理工学院生命科学部 生命医科学科教授の下妻晃二郎先生にご講演いただきました。

今回のご講演では、医薬品を例に取り、市販前に行われる人を対象とした「治験」と市販後の「臨床試験」について、用いられる評価指標、特に健康アウトカム(治療の結果を指す)と医療経済指標に注目して、現状と課題をご紹介いただきました。先生は、「医療の質」を個人的

みならず社会的な視点からも評価し、国民の誰もが安心・納得して受けることができる医療システムの確立を目指していらつしやいます。ありがとうございました。

## 第十九回 ゴルフ・懇親会

平成十九年十月二十七日(土)

三上正勝様・西村定様にお世話いただき、日野ゴルフ倶楽部において開催しました。競技方法はダブルペリアで、元会長の田村弘三郎様が優勝されました。おめでとうございます。

## 第十六回 応化会ハイキング

平成十九年十二月九日(日)

川口士郎様のコース選定により、「清滝川」ハイキングを開催しました。JR嵯峨嵐山駅に集合。亀山公園↓化野念仏寺↓落合↓金鈴溪↓清滝↓錦雲溪↓高雄ⅡバスⅡ京都駅のコース。その後は、例によって安くて美味しい店で懇親会。

## 第二十回 ゴルフ・懇親会

平成二十年三月二十八日(金)



三上正勝様・西村定様にお世話いただき、宇治カントリークラブにお

いて開催しました。大杉義則様が優勝されました。おめでとうございます。(写真は懇親会) 次回は高岡孝一様・西村定様に幹事をお願いし、十月五日(日)に竜王ゴルフ倶楽部において開催されます。

## 第十七回 応化会ハイキング

平成二十年六月一日(日)

川口士郎様のコース選定により、「奈良・若草山」ハイキングを開催しました。(写真)



JR奈良駅集合。猿沢の池↓志賀直哉旧居↓春日大社↓若草山↓東大寺↓JR奈良駅のコース。その後、近くの中華店において、懇親会を開きました。次回は十一月以降に実施される予定です。

## 企画運営委員会

本年度第一回企画運営委員会を七月十九日(土)にびわこ・くさつキャンパスにおいて開催致しました。議題は、健康セミナー、新規企画として、「釣り」、「温泉めぐり」等です。第三回「健康セミナー」の日程はHPをご参照下さい。

## 応化会役員名簿変更箇所 (敬称略)

### 追加

会計幹事

堤 治(平19年着任)

年度幹事

(新制大学一部化学科)

46年卒 城戸 正憲

### 逝去

年度幹事

(専門学校一部理科)

22年卒 山田 益三

(専門学校二部理科)

19年卒 奥(安井) 悦

(専門学校一部工科)

24年卒 目片 昭芳

### 辞退

年度幹事

(新制大学二部化学科)

35年卒 寺井 良平

## 編集後記

洞爺湖サミット開催、北京五輪に二百四の国と地域を集め開幕した二〇〇八年、びわこ・くさつキャンパスに生命科学部と薬学部の二学部が誕生しました。今世紀生物の根底となる生命の解明に進む学部が創設され、先人達の積み重ねた技術が未来へのかけ橋となるよう我々応化会は新旧学部のさらなる躍進を望みます。(金川)

## 物故者

平成19年9月1日から平成20年8月31日の間に、死亡のご連絡を頂いた方々です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

宇野 正幸 (昭和18年卒)	日下部 一男 (昭和19年卒)	奥 悦 (昭和19年卒)	古川 昌美 (昭和20年卒)	松村 格 (昭和20年卒)	松村 卓爾 (昭和20年卒)	山田 益三 (昭和22年卒)	林 邦彦 (昭和22年卒)	白木 保男 (昭和23年卒)	上野 益男 (昭和26年卒)	阪口 長男 (昭和26年卒)	目片 昭芳 (昭和27年卒)	中川 文也 (昭和27年卒)	木下 健 (昭和28年卒)	大河内 雅夫 (昭和31年卒)	前川 近平 (昭和31年卒)	小畑 仁 (昭和32年卒)	黒田 豊 (昭和32年卒)	梶川 勇吉 (昭和32年卒)	清水 博 (昭和32年卒)	吉村 元善 (昭和33年卒)	穂坂 公作 (昭和34年卒)	池田 忠嗣 (昭和36年卒)	堀田 清実 (昭和39年卒)	高田 英資 (昭和40年卒)	脇本 修一郎 (昭和41年卒)	岡田 健三 (昭和43年卒)	山下 博幸 (昭和48年卒)	藤田 直志 (昭和49年卒)
----------------	-----------------	--------------	----------------	---------------	----------------	----------------	---------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	---------------	-----------------	----------------	---------------	---------------	----------------	---------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	-----------------	----------------	----------------	----------------

(敬称略)

## 応化会 2007年度(平成19年度) 事業報告

- I. 諸事業
- 1) 2007年3月卒業生名簿作成 2007年 5月～
  - 2) 第9回応化会総会 2007年 6月17日
  - 3) 在校生ソフトボール大会 2007年 11月 4日
  - 4) 応化会ニュース(第25号)発行 2007年 11月 1日
  - 5) 全会員への通信、会費請求 2007年 11月
  - 6) 卒業記念パーティー 2008年 3月21日
  - 7) ゴルフ懇親会の開催
    - ・第19回 2007年 10月27日
    - ・第20回 2008年 3月28日
  - 8) 応化会ハイキングの開催
    - ・第15回 2007年 6月 2日
    - ・第16回 2007年 12月 9日
  - 9) 第2回健康セミナー 2008年 2月24日
- II. 諸会議
- 1) 幹事会
    - ・第1回 2007年 4月22日
    - ・第2回 2008年 2月24日
  - 2) 常任幹事会 2007年 7月21日
  - 3) 企画運営委員会 2007年 9月 8日
  - 4) 応化会ニュース編集委員会
    - ・第1回 2007年 7月21日
    - ・第2回 2007年 9月15日
- III. 支部活動(関東支部、東海支部、中国・四国支部)
- 1) 関東支部総会 2007年 11月 4日

## 応化会 2008年度(平成20年度) 事業計画

- I. 諸事業
- 1) 2008年3月卒業生名簿作成 2008年 5月～
  - 2) 在校生ソフトボール大会 2008年 11月
  - 3) 応化会ニュース(第26号)発行 2008年 11月
  - 4) 全会員への通信、会費請求 2008年 11月
  - 5) 卒業記念パーティー 2009年 3月20日
  - 6) ゴルフ懇親会の開催
    - ・第21回 2008年 10月 5日
    - ・第22回 未定
  - 7) 応化会ハイキングの開催
    - ・第17回 2008年 6月 1日
    - ・第18回 未定
  - 8) 釣り天狗クラブ(仮称)
    - ・第1回 2008年 11月15日
  - 9) 温泉湯けむり談笑クラブ(仮称)
    - ・第1回 未定
  - 10) 健康セミナー
    - ・第3回 未定
- II. 諸会議
- 1) 幹事会
    - ・第1回 2008年 6月22日
    - ・第2回 未定
  - 2) 企画運営委員会
    - ・第1回 2008年 7月19日
  - 3) 応化会ニュース編集委員会
    - ・第1回 2008年 7月 5日
    - ・第2回 2008年 9月 6日
  - 4) 地域別活動推進委員会 未定
- III. 支部活動(関東支部、東海支部、中国・四国支部)
- 1) 中国・四国支部懇親会 2008年 11月30日

### 2007年度(平成19年度) 応化会決算

(単位:円)		
一般会計		
(収入の部)	予算額	執行額
前年度繰越金	3,328,945	3,328,945
会費(一般)	2,000,000	1,642,801
会費(学生)	1,760,000	1,610,000
寄付金	250,000	194,000
雑収入	5,000	3,485
<b>合計</b>	<b>7,343,945</b>	<b>6,779,231</b>
(支出の部)	予算額	執行額
総会開催費	800,000	794,174
事業等補助金	200,000	3,000
地域別活動推進費	700,000	299,480
会議費	200,000	220,284
印刷費	400,000	445,712
郵送費	800,000	664,978
人件費	500,000	487,500
事務局費	50,000	57,385
雑費	100,000	55,801
拠出金(特別会計へ)	0	0
拠出金(連絡協議会へ)	100,000	80,000
在学生生活活動援助費	200,000	200,000
振込手数料	100,000	63,910
予備費	3,193,945	123,090
<b>合計</b>	<b>7,343,945</b>	<b>3,495,314</b>
次年度繰越金		3,283,917
特別会計		
(収入の部)	予算額	執行額
前年度繰越金	3,215,356	3,215,356
拠出金	0	0
雑収入	1,000	8
<b>合計</b>	<b>3,216,356</b>	<b>3,215,364</b>
(支出の部)	予算額	執行額
人件費	500,000	272,300
事務局費	200,000	111,300
予備費	2,516,356	99,750
<b>合計</b>	<b>3,216,356</b>	<b>483,350</b>
次年度繰越金		2,732,014

### 2008年度(平成20年度) 応化会予算

(単位:円)	
一般会計	
(収入の部)	予算額
前年度繰越金	3,283,917
会費(一般)	2,000,000
会費(学生)	2,180,000
寄付金	250,000
雑収入	5,000
<b>合計</b>	<b>7,718,917</b>
(支出の部)	予算額
総会開催費	0
事業等補助金	200,000
地域別活動推進費	700,000
会議費	200,000
印刷費	400,000
郵送費	800,000
人件費	500,000
事務局費	50,000
雑費	100,000
拠出金(特別会計へ)	1,000,000
拠出金(連絡協議会へ)	100,000
在学生生活活動援助費	200,000
振込手数料	100,000
予備費	3,368,917
<b>合計</b>	<b>7,718,917</b>
特別会計	
(収入の部)	予算額
前年度繰越金	2,732,014
拠出金	1,000,000
雑収入	1,000
<b>合計</b>	<b>3,733,014</b>
(支出の部)	予算額
人件費	500,000
事務局費	200,000
予備費	3,033,014
<b>合計</b>	<b>3,733,014</b>